

## Contents

### 2ページ

- 財団法人 佐世保地域文化事業財
- 財団の概要
- アルカス SASEBO の管理運営基本方針

### 3ページ

- 平成 21 年度の事業展開について
  - (1) 自主・共催事業
  - (2) 施設提供事業
  - (3) 市民活動支援事業（ホールボランティア）
  - (4) 友の会事業

### 7ページ

- アルカス SASEBO の概要
- 沿革
- “アルカス” の名称について

### 8ページ

- 財団法人 佐世保地域文化事業財団 組織図

# 【財団法人 佐世保地域文化事業財団】について

## ■財団の概要

名称	財団法人 佐世保地域文化事業財団
所在地	長崎県佐世保市三浦町 2 - 3
設立	平成 11 年 (1999 年)11 月 15 日
指定管理者への指定	平成 18 年 (2006 年)4 月 1 日
基本財産	30,000,000 円
管理運営施設	シーサイドホール アルカスさせぼ (愛称 アルカス SASEBO)
理事長	深堀 寛治
副理事長	小島 明 (長崎県県北振興局長)
常務理事	田中 忠一

## ■財団の目的と基本方針

財団法人 佐世保地域文化事業財団は、平成 11 年 (1999 年)11 月に、長崎県と佐世保市の共同事業として、地域における文化の創造と、地域の活性化を活動の軸に誕生したアルカス SASEBO の施設の維持管理と芸術文化の鑑賞機会の提供及び育成・普及などの地域文化活動の活性化を目指して佐世保市が設立した財団です。

平成 18 年 (2006 年)からは佐世保市より指定管理者としての指定を受け更なる文化振興の役割を担っています。

## ■財団の管理運営基本方針

アルカス SASEBO は、西九州及び長崎県北部の中核都市としての佐世保市において、文化、経済の振興を図ると共に、再開発地域の中核都市としての賑わいを醸成する役割を持つ施設です。

そこで、文化創造活動の拠点、地域活性化の拠点として、周辺地域と積極的に関わりを持ち、市民と行政、そして財団とが一体となって独自の管理運営を目指します。

アルカス SASEBO の管理運営基本方針は以下の通りです。

- ①多様な文化を取り込み、独自の文化を構築
- ②地域における文化活動を担う人材の育成
- ③市民に開かれた事業の展開
- ④多機能な施設を活用した交流の促進

## ■平成 21 年度の事業展開について

### (1) 主催・共催事業

当財団の自主・共催事業は、優れた音楽や舞台芸術の鑑賞をホールの特長や地域のニーズを考慮して提供する“鑑賞事業”と市民が自ら文化の創造に積極的に関わりを持つ“市民参加型事業”に大別。さらに“市民参加型事業”を“普及”“育成”“交流”“創造”の4つに細分化し、より一層地域に根ざした親しまれる文化ホールとして効率的な運営を図り、地域のにぎわいを創出する核としての役割を果たしています。

#### 【鑑賞事業】

会員や公演ごとのアンケートなど様々の要望に応えるべくホールの特長を生かした魅力的で芸術性の高いオーケストラ、オペラ公演、室内楽、ポップス、落語など、多ジャンルの公演を33本開催していきます。

#### ○大ホール(19本を実施)

7年ぶりの「ウィーン少年合唱団」、平成14年のニューイヤーコンサート以来となる「原信夫とシャープス & フラッツファイナルコンサート」は特別ゲストに綾戸智恵を迎えて実施します。オーケストラ公演は、宮川彬良と新日本フィルによるクラシックからビートルズまでをオーケストラサウンドでファミリーに楽しんでもらう企画と、ニューイヤーコンサートとして「プラハ交響楽団」を実施します。

そしてアルカス開館初めての本格的なオペラ公演、プラハ国立歌劇場 ヴェルディ「アイーダ」では、120年余の伝統を受け継ぐチェコ最高水準のオペラ座「プラハ国立歌劇場」の管弦楽団・合唱団・バレエ団一行210名が来日しての実施となります。

#### ○中ホール(8本を実施)

中ホールセレクションは、「セルゲイ・ナカリャコフトランペットリサイタル」「アンドレワッツピアノリサイタル」「ヴェルターヴォ・カルテット」を実施する。トランペット・ピアノ・弦楽器の醍醐味を室内楽に適した中ホールで楽しんでもらうシリーズを実施します。

#### ○イベントホール(6本を実施)

小劇場的な空間を生かした企画としてひとり芝居・佐野史郎朗読劇「小泉八雲を語る」やArkas JAZZ NIGHT「平野公崇ジャズライブ」、「新春寄席」などを実施します。

### 【市民参加型事業】

育て、楽しむホールとして幅広い市民の文化活動を支援すると共に開館 10 周年の節目にあたる平成 22 年度に向けた事業も視野に入れた事業を 20 本実施していきます。

#### ①普及事業

##### ○「フレッシュコンサート」

若い優れた音楽家を積極的に紹介するとともに安い料金で新しい聴衆を開拓します。

##### ○「ロビーコンサート」

ナマの音楽の楽しさを知っていただくと共に地元音楽家に発表の場を提供する目的で実施します。

##### ○「3才からのクラシック」

普段クラシックコンサートには入場できない3才からの子どもや子育て世代の親子を対象とした楽しいコンサートです。

#### ②育成事業

##### ○「ジュニア ヴァイオリンセミナー」

音楽を通じて子どもたちの豊かな感受性、表現力を育みながら将来地元での音楽活動の担い手を育てることを目標に「ながさき音楽祭」の一環として実施。今年で3年目を迎えます。

##### ○「ヴァイオリンセミナー」

8年目を迎え、これまでの講師豊嶋泰嗣さんに代わる講師で開催（交渉中）。個人レッスンとともに合奏レッスンも実施し、次年度開館 10 周年に開催予定のこれまでの受講生による「合奏団公演」につなげていくと共に「ジュニア弦楽合奏団」結成も視野に入れて実施します。

##### ○「オペラセミナー」

開館 10 周年記念としてホールオペラ公演を目指し、20 年度に引き続き「オペラセミナー」を開催。国内外で活躍中の指揮者樋本英一氏を講師に個人レッスンとアンサンブルレッスンを開催し、開館 10 周年「ホールオペラ」（イベントホール）の実施へ向けて研鑽を積みます。

##### ○「アルカス演劇さーくる」

平成 19 年 2 月に製作し、新人戯曲賞の最終候補に選ばれた脚本とともに好評だった初のオリジナル作品「春の鯨」の福岡（西鉄ホール）公演です。

#### ③交流事業

##### ○「子ども茶道教室」

茶道を通じて子どもたちが日本の伝統文化を体験する教室として各茶道の流派の協力で開催し 6 年目を迎える好評の教室です。

##### ○「アートと遊ぶ」

夏休みに子どもたちがアートに親しむ企画。講師の指導で創作し、作品は交流スクエアで展示します。

### ○アルカス音楽祭 2010

多様なジャンルの音楽を楽しむ市民の皆さんに日頃の成果を披露してもらう恒例の市民参加音楽祭。毎年 1,000 人を超える参加者が集う大規模なイベントとなっています。

### ④創造事業

#### ○開館 10 周年企画「市民ミュージカル」(平成 22 年度本公演)

踊りやダンス、芝居など三世代にわたり大勢の市民が参加し、楽しめるオリジナルミュージカルを企画・実施します(※ 地域創造の平成 21 年度「芸術環境づくり支援事業」に内定)。

## (2) 施設提供事業

### 「コンベンション等の誘致活動」

地域活性化に寄与するコンベンション等の誘致及び支援を展開し、平成 21 年 3 月末の開館 8 年間で 80 件・約 17 万人の大会参加者を見込みます。コンベンション開催の際は、式典・講演会を 2,000 人収容の大ホールで実施し、分科会を中ホール・会議室等で行い、懇親会・展示会などはイベントホールを平土間(フラット)にして行うなど、アルカス SASEBO の施設特性を最大限活かした利用方法を提案し、利用者の好評を得ています。

## (3) 市民活動支援事業(ホールボランティア)

平成 12 年 10 月、アルカスの事業を支援する市民参加としてホールボランティア制度をスタート。平成 13 年 2 月の落成記念式典から活動を開始しました。ボランティアの意義を尊重するため、活動・交通・食事など手当ては提供しないものとして募集を行い、当初 85 名の市民の方々が応募し 65 名が登録。自ら愛称をサーブ(SAV: 佐世保・アルカス・ボランティアの略)と名づけ、主にチケットのもぎり、プログラム配布、客席の案内など公演運営に関する活動を行っています。平成 20 年度から公演の運営をお手伝いいただく【ホールボランティア】と、自身の時間や活動範囲にあわせて公演のチラシやポスターの配布など、情報発信のお手伝いをいただく【広報ボランティア】の 2 つのグループにわけ、それぞれに応じた活動を行うことで、より広範囲にまた積極的な活動を目指しています。

### (4) 友の会事業

広く市民にアルカス SASEBO を支援・活用していただくために、友の会事業（アルカスクラブ）を、2つの種類、つまりオレンジ・ホワイトに分け、金額に応じて様々な特典を設けてスタート。開館5周年を迎えた17年度、オレンジ会員への入会を促進するため、新たにゴールド会員を新設。

オレンジ会員の方々が更新した場合、自動的にゴールド会員とすることによってより多くの会員の継続を図っています。会員数は、平成21年1月31日現在、ゴールド会員1,393人、オレンジ会員(18年4月からの新規入会者)531人、ホワイト会員877人、法人会員38人の計2,839人で推移しています。

会員に対しては定期的なアンケートを実施しており、事業の希望ジャンルやご意見を年間の自主・共催事業企画やホール運営改善に反映。また、会員へのサービスとして美術館バスツアーを平成17年から5回実施しており、毎回多くのお客様から好評をいただいています。

また、ゴールド・オレンジ・法人会員へは、より早く新着情報をお届けし、販売促進へ繋げる為に、アルカス NEWS を、発行日より早く公演チラシと一緒に、公演担当者からのお勧めコメントと合わせて郵送するサービスを開始しました。

21年度はアルカスクラブ会員を対象とした「アルカス文化茶話」の実施を予定しており、音楽、演劇、舞踊、古典芸能などアカデミックな内容で、舞台鑑賞の知識とジャンルへの関心を深めてもらう機会を提供します。

その他、会員カードの提示でサービスが受けられる協力店の新規募集を実施。68施設に拡大し会員サービスの充実を図るとともに、協力店を活用した広報の推進にも力を入れています。

## ■アルカス SASEBO の概要

名称	シーサイドホール アルカスさせぼ (愛称 アルカス SASEBO)
建物の概要	・規模 地上6階・地下1階 敷地面積 10,453 m <sup>2</sup> 建築延面積 22,598 m <sup>2</sup> 建築工事費 152 億円(長崎県 129 億円 佐世保市 23 億円)

## ■沿革

平成 7 年 (1995 年)	1 月 27 日	佐世保駅周辺開発計画発表
平成 7 年 (1995 年)	11 月 30 日	県民文化ホール (現アルカス SASEBO) の計画案発表
平成 8 年 (1996 年)	10 月 9 日	基本計画の完成予想図発表
平成 8 年 (1996 年)	11 月 30 日	市民の声を聞く「運営を考える委員会」発足
平成 9 年 (1997 年)	2 月 18 日	「ホール利用者団体協議会」発足
平成 10 年 (1998 年)	1 月 28 日	起工式
平成 10 年 (1998 年)	12 月 26 日	愛称募集開始
平成 11 年 (1999 年)	5 月 10 日	愛称がアルカス SASEBO に決定 (4,163 件の応募)
平成 11 年 (1999 年)	11 月 15 日	「財団法人 佐世保地域文化事業財団」設立
平成 13 年 (2001 年)	2 月 18 日	落成式
平成 13 年 (2001 年)	3 月 1 日	グランドオープン
平成 18 年 (2006 年)	4 月 1 日	佐世保市より指定管理者の指定を受ける

## ■“アルカス”の名称について

“アルカス”は、ギリシャ神話にある母と子の物語に登場する子どもの名前で、その母と子は大熊座（北斗七星）と小熊座になったと言われています。

この二つの星座を「シーサイドホール・アルカスさせぼ」と「佐世保地域交流センター」に見立てて“文化創造の拠点”、“地域活性化の拠点”として地域を明るく照らす施設になるよう名付けられています。

# 【財団法人 佐世保地域文化事業財団】について

## ■財団法人 佐世保地域文化事業財団 組織図

